

令和7年度 大阪府立光陽支援学校 第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	川村 典子

開催日時	令和8年2月12日(木)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(副会長) 鎌倉 義雄(委員) 溝口 有香子(委員)
出席者(学校)	川村 典子(校長) 道前 光司(事務長) 藤原 博之(教頭) 西山 三穂子(教頭) 竹内 成江(首席) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 佐藤 薫(指導教諭/病弱部主事) 網中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 内原 菜希(小学部主事) 上田 康司(高等部主事)
傍聴者	
協議資料	下記議題関係資料
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」結果について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について</p> <p>(4) 「令和7年度 学校経営計画と学校評価」の達成状況について</p> <p>(5) 「令和8年度 学校経営計画と学校評価」案について</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) その他</p> <p>(8) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>早いもので一年がもう終わります。総括をして来年度につなげていきたい。</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」結果について</p> <p>西山教頭より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2度のアンケートを実施。1回目の回答率の低さを受け、2回目は掲示物や教員の呼びかけ等を行った。 ・病弱部は出入りが激しいことから良くなっていないが、肢体不自由部門では大幅に回答率が上がった。 ・授業内容への意見をいくつかいただいた。全ての授業につながるものなので、真摯に受け止めて今後活かしていきたい。

(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について 別紙参照

○質問項目は昨年度と同様。それぞれの部門のみの質問に関しては分けて集約した。

【教員用】

○全体的に見て、昨年より肯定的評価は微増

○「仕事の効率化・スムーズな引継ぎ」「働き方改革」重点課題として取り組み、8%増。

・昨年度から導入された teamsの利用が定着し、教員同士の連携が取りやすくなっている。

・今年度途中から、会議の議事録の様式や記録の回覧方法も変わり、スリム化されたことが要因の一つ。

○「安全な環境づくり」肯定的意見が93%で6%増

・一昨年度肯定的意見が55%だったのに対し、2年間で大幅増。引き続き、今年度も安全点検を行っている。

○「原籍校との交流・Web交流会」肯定的意見が13%減 わからないが10%増

・今年度、病弱部門では今年度新しく来た方が、17名中7名で、昨年度来た方を含めると、この2年で半数以上の教員が入れ替わっている現状が要因の一つだと考える。

【保護者用】

○保護者の回答は微減、病弱部門のみ大幅に増

・病弱部門では在籍期間が様々である実態から「わからない」の回答が過半数を上回る項目がいくつかある。

・全体的に回答数が減少傾向にある。より多くの保護者の意見が必要。回収率の上昇も今後の課題である。

【児童生徒用】

・進路に関する項目について、質問内容を変更したが、依然として「わからない」が多い。

【今後の課題として】

・「防災」教職員は増 保護者は減 今後重点的に取り組んでいく。

・「自立活動」教職員肯定的意見減 保護者「ICT 機器」減。肢体不自由校の根幹である自立活動教育の充実は不可欠であり、教員の中でも、もっと学びたいとの声もある。専門性の向上について今後取り組んでいく。

・来年度、保護者は肢体と病 分けてアンケートを取る

(4) 「令和7年度 学校経営計画と学校評価」の達成状況について

・別紙「令和7年度学校経営計画及び学校評価」参照

・本年度の取り組み内容と自己評価を説明。

・自己評価が△、◎の部分を中心に説明。

(5) 「令和8年度 学校経営計画と学校評価」案について

・別紙スライド「令和8年度 学校経営計画(案)について」参照

・今年度の学校教育自己診断の結果から、特に着目したいことは、「安全安心に関する評価」で、保護者、教職員共に高い。これを維持すべく、引き続き人権尊重の精神を培う取り組みを行っていく。

・「防災に関する評価」は保護者、教職員共に下がった。十分に取組みなかつたうちに1年が終わったことは反省点である。

・「教職員は子供の障害についてよく理解している」の項目は、100%目指しているため、少しでも下がっていることは課題であり、下がってはいけないと捉えている。

・「進路」と「ICT 教育」の項目は、教員はよくても保護者に届いていないことは課題である。

・これらを踏まえた課題として、ICT 活用を含めた自立活動の指導力向上、防災特に災害時の医ケア、進路として小学部段階からの進路指導の仕組みづくり、を重点課題に据える。この他にも課題はあるので、全ての課題について教職員の対話と協働、コラボレーションによって取り組んでいきたい。

・対話と協働については、今年度より対話を進めるプロジェクトチーム「コロンブスの卵」で取り組んでいる。本校は組織が一定整っていて、組織的に動くことが定着しているため、組織力の強化ではなく、「ビジョンを共に描き共有すること」が大事だと考えている。ビジョンの土台である「学校教育目標」「めざす児童生徒像」をみんなが言えるように、体にしみこませることが必要。

・経営計画の「基礎」について。基礎は何においても人権尊重の精神。防災については、防災士に避難訓練やGoGo フェスティバルにきていただき、評価を受けたり指導・助言をしていただいたりする。

・2「実践」は、専門性は様々にあるが、自立活動の指導力、授業力、医療的ケア・病弱児への理解を深める、小学部段階からの進路指導の4点に絞った。

・3「発信」は、大阪府が進める「ともに学びともに育つ」教育の実践。交流及び共同学習、地域校への支援は引き続き力を入れていく。また、児童生徒が自分らしさを発揮したり、チャレンジしたりすることを表現できる場をつくること。発信の目的はインクルーシブ社会の実現への貢献だが、インクルーシブ社会を目指すことが子供たちのウェルビーイングの実現につながる。

・GoGo フェスティバル、こうやんマーケットは、次年度から病弱部ともコラボしてやろうと計画している。

・4「組織」本校に必要なのは、組織力の向上ではなく、対話と協働である。他学部間や病弱部との交流、分掌間や教員と看護師とのコラボを行っていく。

(6) 意見交換

・藤原首席より、GOGOフェスティバルについて説明

企業を招致する予定。例えば、本校には導入されていない「キャリアロコ」を扱う企業にも出展していただくなど。教員にとっても学びとなる。詳細が決まり次第、ホームページにも掲載する。

・小・中・高等部の修学旅行動画を上映

(7) その他

卒業式の案内

(8) 教頭挨拶(西山教頭より)

今年度のご出席、貴重なご意見への感謝。今後の教育活動につなげる。

委員からの意見の概要

・数字だけ見てもわからないこともあるが、自由記述を見ると、保護者から高い信頼を得ている。感謝の言葉が多い。教育技術だけでなく、体調や気持ちに寄り添っていることがわかる。光陽の役割が高い。

・teamsの活用や安全点検など、大きく数字が変化している。要因の分析やPDCAがうまくできている。

・数字の変化で目立つのが「施設設備の点検・管理」の項目。肯定的意見が55%から93%に大きく変化している。努力や工夫があったと思うが、裏を返せば、それがなくなればすぐに弱くなるのか。安定的に数値を保てるのか。

→2年前まで安全点検を行っていなかった。児童が、危険なものに触れて大けがしたことを受けて、昨年度の途中から始まった。毎月点検、チェックをし、必要時は事務がアプローチ。改善できるところはすぐに改善している。チェック項目は点検場所によって異なるが、約20項目。今年度、業務のスリム化で一時電子化したのが、チェック率が下がった。チェック用紙を直接担当者に提出する方法に戻し、再びチェック率100%になっている。このことで、さらに安全点検への意識が高まった。

・継続的に行うことと、デジタルだけでなく、場合によってはアナログに戻りながら行うことも大切だと感じた。

・仕事の効率化も大切。自立活動。専門性も大切にするとよりよくなる。

・賢者への移行はどうか。

→肢体不自由部門のみ、来年度から使用していく。昨日職員全員で研修を行った。今までの使用していた教育支援計画と項目が違うため、苦勞している。知的と肢体では、必要な項目が違うため、いる項目、いない項目など、いろいろあるが、本格実施に向けて進めている。

・学校経営計画は、誰がどのように作るのか。また、看護師等合わせたら120名以上の組織だが、その末端までどのように浸透させるのか。何年か前にリフト活用の話があったが、今はどうなっているのか。また、校務ではなく、子どもたちが使う、ICT機器について、学校経営計画のどの辺にあたり、どう進められるのか。

→・子どもたちへのICTは具体的に書いていないが、自立活動の部分に含まれている。自立活動を通して、動きが少ない児童がスイッチを使用するなどといった授業づくりをしていきたい。それをイコールで「自立活動」という捉えでやっていきたいと思っている。

・学校経営計画の立て方は、光陽の組織や文化を見極めて立てている。病弱部門を併置していることも診断し、常に先生方と対話するようにしている。どこに向かったらいいのかを描いている。みんなで作りたいたいと思っている。そうするために、分掌長とヒアリングして個人的な課題も聞き取り、落とし込んでいる。教育庁に1月末に提出しているので、大きくは変えられないが、指摘してもらい、訂正した箇所もある。また、今年に関して、教職員に浸透されていない部分もあったため、関係部署を載せている。

・光陽は基本的に高い水準で運営されている。時代や先生方の思いに合わせて、新しい取り組みも取り入れている。全体的に水準が高いと、上を目指すのも難しいので、今、うまくいっている所を維持していくことも大切。先生方のメンバーが変わっても、この水準を保てるようにしなくてはいけない。120人いる中で、担当者が変わりそうなところを意識した取り組みで工夫している所があれば、教えていただきたい。

→引継ぎは常に意識している。教職員も自分の所に抱え込むのではなく、常に引継ぎを意識しているのを感じている。全て文字だけで引き継げることではないが、日頃から情報を整理している。

・1年間 PTA 会長をしてきて、発信する難しさを感じた。やさしく、わかりやすく、タイミングよく、と思っているが難しい。防災や ICT 機器の使用については、学校では必ずやっていることなので、もっと「やっているよアピール」をしてもいいのでは。ICT 機器を使って作った作品を持ち帰らせたり、避難訓練の日に、ハンカチを持たせるようお願いしたり等、保護者にわかりやすくアピールしてみるのもいいと思う。

・大学進学者はいるか。

→昨年度1名。今年度はいない。

・重度肢体不自由や知的障害がある生徒が大学に進学するようになった。進路指導の仕組みも変わっていく。教育課程も変わっていくだろう。

・進路について。事業所に小学生から来られて、高校卒業後に空きがあるかを心配されていたり、空きがあるところから選ばないといけなかったりする現状がある。逆に、こんなことしたい、あんなことを考えている、という話をだしてくれれば、手をあげてくれる事業所が出てくるのではないかと。やりたいことを先に伝えておいてくれたら、事業者にヒントを与えられる、くらいの気持ちでやってもいいのではないかと感じる。

・卒業後の進路について考えている。ICT の視線入力を学校でやっていて、卒業後もやっていただきたいと思っている。事業所の方に、学校に来ていただいて、やり方を見て欲しいと思っている。週に1回でもいいので、卒業後にも続けられたらいい。

・事業所の職員も、思いは先生方と一緒にだと思ふ。事業所同士、横のつながりは、自立支援協議会等の正式な場しかないが、いろんなつながりから知り合っている事業所はある。

・それぞれの年代の修学旅行の様子を見て、子どもたちだけではなく、先生方も楽しそうで、日々の実践の積み重ねがあっただと感じた。万博に行けなかったのが、改めて行けばよかったと後悔するほど、心温まる紹介動画

だった。

・随分前だが、遠足で万博記念公園に行こうと計画した際に、お断りされたことがあった。管轄の国土交通省に連絡し、事情を説明すると、許可が出た。このように楽しそうな表情をみると、いろいろな施設がウェルカムで受け入れてくれることがとてもありがたいと感じる。

・娘は修学旅行がすごくたのしかったみたいで、帰ってから家族や訪問看護師にもずっとおしゃべりしていた。楽しかった余韻が三日間は続き、親としてもすごくうれしかった。